

開催日時	2022年4月27日 15:00～16:20	開催場所	※全出席者はWebexシステムによる リモートアクセスにて出席
委員一覧			
	氏名	所属	役職
◎	大山 力	電力広域的運営推進機関	理事長
○	安念 潤司	中央大学大学院	法科学研究科 教授
	安藤 至大	日本大学	経済学部 教授
	石井 達也	電源開発(株)	エネルギー計画部長
	石坂 匡史※	東京ガス(株)	電力事業部長
	片山 朋宏	(株)エネット	需給本部需給オペレーション室長
	齋藤 靖浩	東北電力(株)	執行役員 発電カンパニー 事業戦略部長
	花井 浩一	中部電力(株)	執行役員 経営戦略本部 部長
	松本 裕仁	丸紅新電力(株)	運用部長
	村上 堯	(一社)日本卸電力取引所	理事長
	国松 亮一	(一社)日本卸電力取引所	企画業務部長
<p>◎印は委員長 ○印は副委員長 ※石坂委員は代理出席（中井恒介作業部会メンバー） <オブザーバー> 東 哲也 電力・ガス取引監視等委員会事務局 取引制度企画室長 下村 貴裕 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 電力産業・市場室長</p> <p style="text-align: right;">（敬称略、順不同）</p>			

検討議案

- 議題 1：2022 年度における運営委員会検討項目の頭出し（見直し）
- 議題 2：分断エリア別入札カーブ図について
- 議題 3：ホームページ更改後のイメージの共有および改良アイデア
- 議題 4：作業部会のメンバーの変更について

事務局より、運営委員及びオブザーバーの出席状況が報告された後、大山委員長が議長となり議事を開始した。

議題 1. 2022 年度における運営委員会検討項目の頭出し(見直し)

事務局より、2022 年度の当委員会での検討項目につき、前回の議論も踏まえ、スポット市場の情報公開、ブロック入札、先渡市場の在り方、時間前市場の板情報におけるエリア別表示、非化石証書のトラッキング、JEPX の組織体制、JEPX の危機管理の各項目について説明があった。各項目の論点やスケジュール等について検討し、今後、各項目につきスケジュールに沿って検討を進めることを確認した。事務局説明は以下の通り。

- スポット市場の情報公開については、既定の方向性として、分断エリア別入札カーブ図の公開(但し分断したエリアが 1 となる場合は除く)【本年 6 月目途】、また、HP(ホームページ)の更改にあわせた入札カーブの画面表示(マウスカーソルをあてることで値が表示される)【本年 12 月目途】の 2 点を実現する。今後の検討事項は、分断エリア別入札カーブの公開にあわせたカーブ図のスケールの変更(本日検討)、HP 更改後のイメージの共有および改良アイデア(本日検討)、入札データの素データ(CSV)公開の 3 点である。なお、入札素データ(CSV)については、公開によって得られる便益を見極め、その粒度等の検討をすすめていくこととし、向う半年程度で結論を得たい。
- ブロック入札については、今後、先行する市場(欧州)のブロック入札の調査、およびそれを踏まえた、効果的な約定のための約定計算ロジック(例えば、他の市場で導入されている最適化計算ツール(ソルバー)を用いた、より効果的な約定を志向するロジック)の検討を進める。また、当年度内を目途に、現行のロジックを前提に、いわゆるリンクトブロックの導入を進めたい。
- 先渡市場については、今秋までを目途に、卸電力市場全体を俯瞰し、電力先物市場の取引動向も踏まえ、本所の先渡市場のあり方について検討する。取引の集中化の観点では、金融機関等の多様な参加者が存在する電力先物市場への統合が望ましいと考えられるが、その課題や可否について、TOCOM 等とも意思疎通しつつ検討を進める。そのさい先物市場の流動性、先渡市場と先物市場の違い、先物市場参加の障壁(加入条件等)といった点に留意する。また、短期的には、本所の先渡市場に対して実施すべき施策があるかという論点もある。
- 時間前市場の板情報におけるエリア別表示については、本年 8 月を目途に、ニーズや分断の頻度、画面の見やすさ、対象とする分断(東西、九州等)、エリアが特定されることにより入札を躊躇う事業者が増えるか、エリア別とすることによる利点は何かといった点を分析し、エリア別表示導入の適否を検討する。
- 非化石証書のトラッキングについては、来夏の運用開始を見込み、当所が運営主体となるために必要な規程、システムの整備に向けた検討を行う。
- JEPX の組織体制については、理事会のガバナンス、組織のガバナンスの観点から、本年総会後の新たな業務執行体制のもとで理事会及び事務局で検討の上、運営委員会に報告して意見をいただくこととしたい。(本年 9 月目途)

- JEPXの危機管理については、現状について整理し、運営委員会に報告して意見をいただくこととしたい。(本年7月目途)

以上の説明に対し、以下の意見・質疑等があった。

○石井委員

- 先渡市場の検討にさいしては、現物市場と先物市場との違いやそれぞれの得失について整理願いたい。
- 組織体制については、まず理事会については今般の見直しで一つの区切りがついたと考えられるが、さらに何らかの課題があればご教示願いたい。組織のガバナンスについては、ガバナンスに必要な「人の分離」を実現するために必要な要員の確保という点も含めて検討が必要である。

○事務局

- 現物市場と先物市場との違いはまさに必要な論点で、会計や税務の面も含め、検討が必要と思料。
- 組織体制については、ガバナンスに必要な要員が足りているかどうか、足りない場合の調達方法などを議論してまいりたい。

○花井委員

- 危機管理については、現状について整理した結果、課題があればさらに期間を設けて検討するとの理解でよいか。
- 国の審議会で検討されているベースロード市場の見直しについては、審議会の検討を受けて検討項目とするとの理解でよいか。

○事務局

- 危機管理について特段の不備はないと自認しているが、課題があれば検討を継続するものと認識。
- ベースロード市場については、市場分断に伴う値差については電事法で決まった仕組みに従って取り扱うべきもの。なお、九州エリアの分断については、準備は出来ている状況。国の審議会で検討されている案件であり、当委員会で別途検討することが適切かどうか。

○齋藤委員

- 先渡市場については、先物市場との統合という論点と、短期的な先渡市場への施策という論点があったが、両者の時間関係は如何。
- 時間前市場の板情報におけるエリア別表示については、作業部会での検討を行いつつ運営委員会で審議していく進め方という理解でよいか。

○事務局

- 先物市場との統合には時間を要すると考えられるので、短期的な論点も記載したが、事務局として先渡市場に対する具体的な施策の案を持っているわけではない。
- 時間前市場の板情報におけるエリア別表示については、当委員会に先立って作業部会で検討することを想定している。

○東京ガス中井氏(石坂委員の代理)

- 検討期間が数か月以上に及ぶ案件については、その途中のスケジュール感が資料に示されることが望ましい。

○事務局

- スケジュールについては、案件毎に検討の進め方が異なるので、個別の検討を進めながら各委員にご案内申し上げたい。なお、本日お示したスケジュールは、案件によっては必ずしもデッドラインを示したものではなく、検討を着実に進めていくための目安として記載したものもある。

○安藤委員

- リンクブロックを検討するとのご説明があったが、先行する海外市場の調査には、そこで導入されているリンクブロックも含まれている、という関係なのか等、より詳しく説明願いたい。
- 危機管理には、人的問題と自然災害など、予防と発生後の BCP など、さまざまな切り口がある。そのような切り口に照らして明確に整理された現状報告を期待する。

○事務局

- ブロック入札に関する先行市場の調査については、国の審議会でも紹介されている海外のブロックの仕様や機能に加え、参加者の使い方について文献等や調査機関による調査を行いたい。約定計算のロジックについては、現行の方法(入札を一個ずつ取り込みながらの繰り返し計算によって売買一致点を求める)とは異なる、ソルバーエンジンを使ったロジック(最大化する目的関数と、制約条件とを決めて一気に計算する)への切り替えが可能かどうか、それによって複雑なブロックの計算に対応できるかどうかを検討してまいりたい。
- 危機管理については、現行 BCP を分り易くする等も含め、説明してまいりたい。

○松本委員

- 先渡市場と先物市場との統合については、TOCOM等の先物市場の運営者の考えも十分に理解して進める必要があると考える。

○事務局

- TOCOMやEEXとの意見交換を行ってまいりたい。

議題 2. 分断エリア別入札カーブ図について

事務局より、市場分断した場合のエリア別入札カーブ図の詳細についての作業部会での検討結果について説明があった。概要は次の通り。

- 図のスケールは、入札量の実績値やインバランス制度を踏まえ、システムプライス、分断エリアプライスとも、X 軸の入札量(MW)は 0~70000(現行通り)、Y 軸の入札価格(円/kWh)は 0~210(現行システムプライスの入札カーブ図は 0~1000 であるが、交点付近を見やすくする方向で見直し)とする。解像度は現行と同等。ただし分断エリアが 1 エリアである場合、当該エリアのグラフ図は非公開とする。
- 議論の過程では、現行のスケールのもの(Y 軸が 0~1000)を残し、新スケールとの 2 パターンを用意する案もあったが、早期公開(6 月)、ニーズの強さ(交点付近の詳細化)、公開作業の負担等を総合勘案し、上述のスケール(Y 軸の入札価格が 0~210)の 1 パターンのみとすることになった。
- 6 月の公開を目指すとともに、ホームページの更改(12 月目途)の後は、欧州の EPEXSPOT と同様の利用者との対話性のある方式(※)の導入を検討する。

※EPEXSPOT では、ホームページ閲覧者が、希望する地域、時間帯などを指定。カーブにカーソルを当てるとその点の数値が表示される。

(EPEXSPOT 社ウェブサイトより。<https://www.epexspot.com/en/market-data>)

以上の説明に対し、以下の質疑等の検討の結果、作業部会での検討結果に沿って検討・準備を進めることとした。

○松本委員

- 分断エリア別入札カーブ図は、本年 12 月目途の HP 更改後も継続して開示されるのか。

○事務局

- その通りである。HP 公開後はこのカーブ図を新たな画面で見えるようにする。

○大山委員長

- 前回は申ししたが、ブロック入札はどのように示すのか。約定しないブロックがどのようになっているかは重要な情報である。

○事務局

- ブロック入札に係る情報の見せ方は、カーブでなく、素データの示し方の課題であると認識。引き続き検討し、委員長にご相談申し上げる。

議題 3: ホームページ更改後のイメージの共有および改良アイデア

事務局より、ホームページ更改の検討にあたって参照した EPEXSPOT 社ウェブサイト(前記URL)を紹介し、これを参考にして対話性に富んだホームページを目指したい旨の説明があった。

- EPEXSPOT 社ウェブサイトでは選択できる期間が短い(2 日間)等の課題があるが、そのような点は、当所ではより長期間のデータ(例: 平均価格)を示す等、改善していきたい。

以上の説明に対し、以下の質疑等の検討の結果、関係者のニーズを適宜把握しつつ、引き続き検討を進めることとした。

○花井委員

- EPEXSPOT 社以外の事例は参照したのか。
- 本日示されたイメージは 12 月目途の HP 更改で実現するのか。今後の進め方、スケジュール感や費用を次回お示し願いたい。
- HP 更改にあたっては API 利用会員にも配慮されたい。
- フィルターで指定できる期間などについては、利用者ニーズを汲んで検討を進めていただきたい。
- EPEXSPOT 社の場合、有料販売の対象に、入札データの素データが含まれている。単独エリアとなった場合の入札の匿名性には配慮が必要である。

○事務局

- 英国、北欧などとも見比べたが、EPEXSPOT のものが最も適当と思料した。
- EPEXSPOT 社の有料販売はあくまでも一例であり、当所は営利目的のデータ販売という発想は持っていない。HP 上でも、1 エリアとなった場合の入札の匿名性には当然、配慮する。
- スケジュールについては、本日お示したイメージを本年 12 月に実現する予定(詳細スケジュールは別途ご相談)。費用規模は 2000 万円程度と予想。

○東オブザーバー

- このような検討は鋭意進めていただきたい。EPEXSPOT の公開ウェブサイトに入札カーブにカーソルを当てて示されるデータは、CSVファイルで示される素データと事実上同じであり、データの粒度に差はない。カーブの公開と CSV データの公開は一体で議論するのか。

○事務局

- CSV データについてはそれを蓄積して分析する等、別のニーズや用途があるので、別途の議論が適切と考える。

議題 4: 作業部会のメンバーの変更について

事務局より、作業部会メンバーである電源開発株式会社の有岡顕洋氏の人事異動に伴い、その後任として同社の太田佳宏氏に作業部会会員を委嘱する案が説明され、了承された。

以上をもって、16 時 20 分に議事を終了した。

以 上